

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名：小島美和

所属：東大阪市立成和小学校

記録日：2022年 2月25日

キーワード：コミュニケーションの補助 視覚支援

【対象児の情報】

・学年 小学6年生 女児

・障害名 ダウン症 知的障害

・障害と困難の内容

知的な遅れがあり、発音が不明瞭で、うまく会話できない。

どこへ行くにも大人の付き添いが必要である。

・使用した機器に

iPad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

①いろいろなコミュニケーション方法を知り、「伝わるって楽しい」を実感する。

②学校生活の中で「できるってうれしい」体験を積み重ね、一人でできることを増やす。

・実施期間 2021年4月～2022年2月

・実施者 小島 美和

・実施者と対象児の関係 支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

<生活について>

・療育手帳（A）を所持している。

・毎日しているようなことであれば、人の言ったことを理解できている。

・おしゃべりで、友だちや先生たちに話しかけるが、発音が不明瞭で友達には何を言っているのかわからないことが多い。一緒に行動をすることの多い教員であれば、通じることも多い。

・歩行は安定している。階段は手すりを持たずに足を交互に昇降できるが、下りは足をそろえて下りる。手すりを持つと交互に下りることができる。

・通常の学級では、外国語の授業で友だちの真似をしたり、友だちの言ったことに反応したり、内容についてわからなくても、楽しめる場面がある。

<学習について>

・知的な遅れがあり、特別支援学校学習指導要領の小学部第2段階を元に教育課程を立てている。（算数に関しては第1段階である。）

・昨年度末ごろに、音と文字が対応していることを感じ始めた。ひらがなで読めるのは10文字程度である。（「すいかのす」というものも含めると20文字程度読める。

・なぞり書きは3cm平方マスなら、下地を見ながらそれに近いものをなぞる。（ひらがなの結びはうまく運筆できない）。それより小さい文字はなぞれない。

・数の認識面では、一対一対応や大小比較はできており、5までの数唱はできるが、具体物を2個、3個と指示されてとることはできない。

- ・50ピースくらいの幼児用パズルが一人でできる。
- ・言葉にできる語彙はそれほど多くなく、ことばのカードを使って確かめてみると、食べ物には強いが、動物の場合、犬を「うし」、かめを「かえる」と答えている。動作ことばは、名詞とセットでないとわからない。幼児ことばだとわかるものもある。（「書く」→「かきかきする」など）。気持ちの言葉は「にこにこ」「おこってる」「すき」「きれい」「いたい」はいえる。
- ・じっとして話を聞くことが苦手で、家でもテレビや動画を見て過ごすことができない。タブレットを前にすると常に何かをタッチするため、一つのアプリを一定時間楽しむことができない。

<環境について>

★昨年度

- ・本校の支援学級の児童は生活の基盤を交流学級においており、支援学級で学習できるのは、交流学級が国語と算数の時間（つまり1日に2時間）。理科や社会の時間も交流学級で支援者とともに過ごしていた。大抵は、まわりと同じ内容を支援者がノートに書いたものをなぞる活動をしていた。（実際はなぞることができないので、なぞり風の線をかいていた）。
- ・交流学級での授業時、楽しくない時は、歯ぎしりをする人が多い。
- ・本児には常に誰か大人がついており、指示はその都度言葉のみで行なっており、スケジュールボードや行先の写真カードなどでの視覚支援によるコミュニケーションは全くとっていなかった。その都度の指示であれば大体は通じていた。
- ・校内でも、教室等の移動は必ず大人が付き添っていた。

★今年度

- ・理科と社会を交流学級で参加する回数を減らした。理科では「実験を楽しむこと」、社会は「ひらがなシールを利用して、ひらがなマッチング（手先の作業）」など、友だちの中で本児にできる学習活動を考えており、支援学級教室での学習時間も増えた。
- ・視覚支援を取り入れた。スケジュールボードを交流学級の自席のそばに置き、1日の予定や活動場所を確認するようにしている。それを見ながら移動を行なっている。4月には自分からスケジュールを確認することもなかったが、最近では授業が終わると「おわり」「おしまい」と言いながらカードを裏向けたり、「べんきょう？」（支援学級での学習）とカードを指差ししながら手提げ袋に筆箱を入れたりすることが出てきた。
- ・本校は全校児童が1000人を超える大規模校で、対象児童の学年も5クラスあり、6年生の授業は専科や教科担任制の兼ね合いで変更がきかず、本児にあった時間割がたてにくい。また、専科の教室、交流学級、支援学級、体育館等移動も多く、休み時間は時間に追われていることが多い。その中で、一人で移動できる時間を増やし始めているところで、現在、「トイレに行ってから、教室に帰って」などと言われると、時間はかかるものの一人で移動できることもある。
- ・職員会議で対象児童が一人での教室移動を練習中だと報告し、全職員で見守っている。

○活動の具体的内容

- ① いろいろなコミュニケーション方法を知り、「伝わるって楽しい」を実感する。



- ・自分の活動したことや成果物を写真に撮り、友だちや先生、家族に写真を見せながら話をする。
- ・iPhone を持ち帰り、家庭の様子を写真に撮ったり、先生とスタンプのやりとりをしたりして楽しむ。
- ・集団自立活動（本校では「朝の会」と呼んでいる）での当番の時に、低学年児童の前で、写真をもとに話をしたり、絵本アプリ等を見せてあげたりする。
- ・交流学級の日直スピーチにおいて、活動している写真やひらがなを貼り付けた「Keynote」「ロイロノート」を電子黒板に写しながら発表する

② 学校生活の中で「できるってうれしい」体験を積み重ね、一人でできることを増やす。



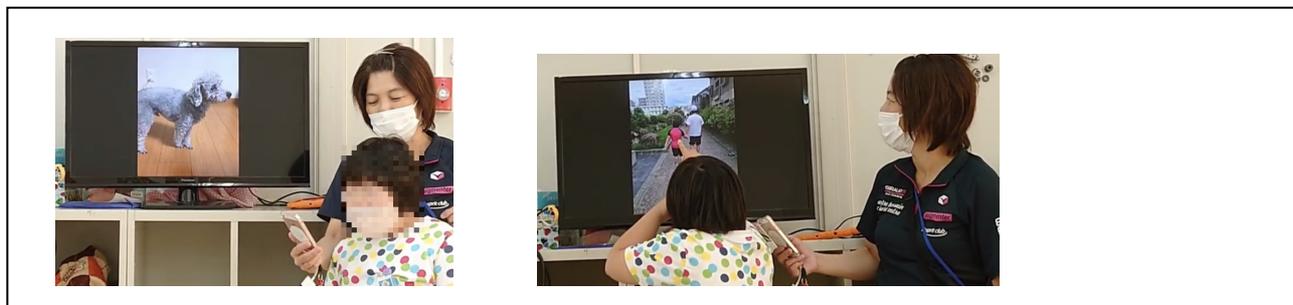
- ・スケジュールボードや「Drop Talk」アプリを用いて、1日の活動に見通しを持たせる。それをもとに、支援者がつかずに一人で行動できることを増やす。
- ・文字に興味が出てきたので、知っていることばとひらがなをつなげる取り組みを、アナログ、デジタル両方の方法で取り組む。「Drop Talk」等のアプリを使い、語彙を増やす。
- ・交流学級での授業で本児ができることを増やし、本児の学習方法を学級の友達に知らせる。
- ・交流学級で、GIGA 端末を使用する場合「ロイロノート・スクール」上で作業することが多いが、本児が取り組んでいる様子の画像やイラストを挿入して提出する。
- ・お楽しみのアプリ（ひらがな学習やパズルなど）を見つける。また、「ひがしおおさか電子図書館」で読み聞かせのできる絵本を借り、お話を楽しむ。

1 学期は主に貸与された iPad mini を使用していたため「ロイロノート」を、2 学期以降は毎日 GIGA 端末の iPad を個人管理として持ち帰りも行っていたため「ロイロノート・スクール」を使用した。

○対象児の事後の変化

① いろいろなコミュニケーション方法を知り、「伝わるって楽しい」を実感する。

- ・家での様子を iPhone で撮影し、その写真をもとに先生や友だちに話をするようになった。写真があることで何を言っているのかがわかり、友だちにもわかってもらえることが増えた。写真を電子黒板やテレビ画面につないで、支援学級の集団自立活動（朝の会）で前で発表した。



- ・長期休みや学級閉鎖時に、朝 8 時過ぎに「DropStep +ByTalk」で「おはよう」「はみがき」「べんきょう」のスタンプを送ってきた。長期休みでも、朝食後に歯磨きをして、宿題プリント（シールでマッチング等）をするというリズムが整っていることが分かった。休み中も生活リズムが安定していた。

・夏休みの途中で、「DropStep+ByTalk」で、保護者から「宿題を全部終わりました」という連絡があり、追加してほしいようだった。朝のルーティンを継続するためにすぐに宿題を追加することができた。



・急な学級閉鎖等でも、「DropStep+ByTalk」もしくは「ロイロノート・スクール」で連絡をとることができた。臨時休校中にGIGA端末の調子が悪くなり修理に出す間は、iPhoneで「ロイロノート・スクール」にログインして、つながることができた。

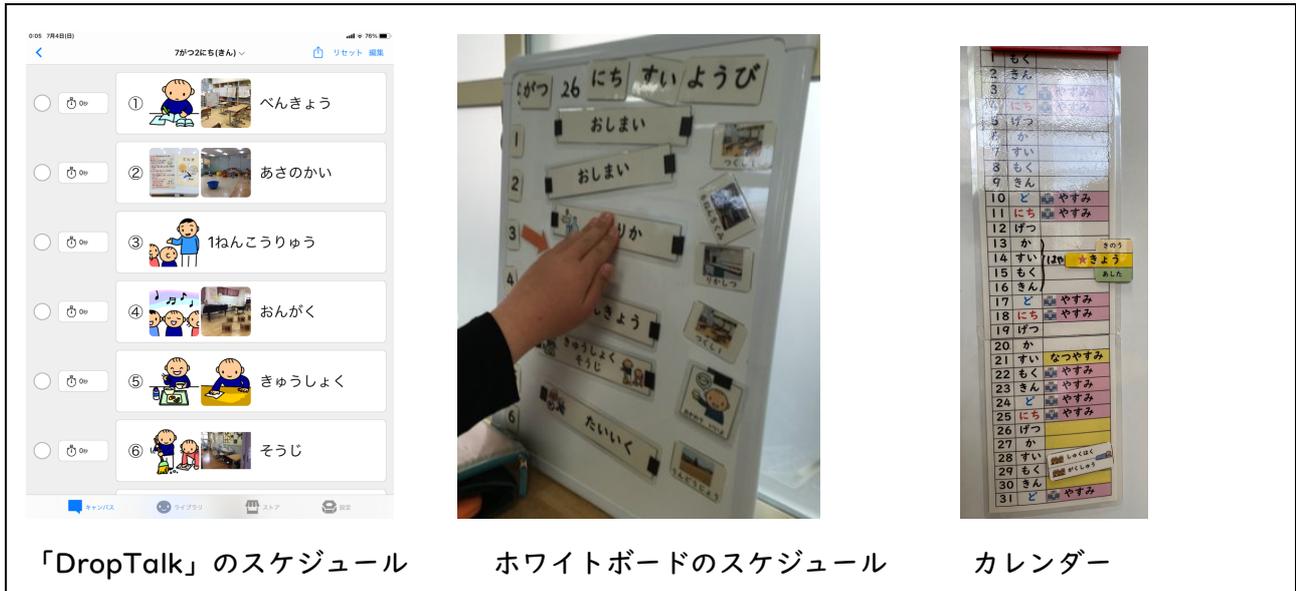
・交流学級の日直スピーチのために、写真を撮ったり、イラストをえらんだりしながらスライドを作った。「Keynote」の画面に合わせて発表練習をしたり、「ロイロノート」「ロイロノート・スクール」に音声を入力したりして、スピーチに備えて、しっかりと発表することができた。



・話をしても発音が不明瞭なのは変わらないが、友達に「なんて?」と聞き返されると何度も同じことを言って伝えようとしたり、ジェスチャーをつけたり、写真を撮っているものがあればiPhoneやiPadを探して写真を出そうとしたりということが出てきた。

②学校生活の中で「できるってうれしい」体験を積み重ね、一人でできることを増やす。

・スケジュールボードや「DropTalk」アプリのスケジュールを見ながら説明すると、一人で教室移動できることが増えた。休み時間はまわりに気を取られることが多く、時間はかかるが、自分で「トイレ行ってー、きょうしついく！」と言いながら一人で行動できることが増えた。



「DropTalk」のスケジュール

ホワイトボードのスケジュール

カレンダー

・6月に社会見学（京都方面）に行った。事前にカレンダー（アナログ）で予定を確認し、行先や水族館の魚等の写真やイラストと言葉カードをマッチングする課題（アナログ）に取り組んだ。同時に「DropTalk」にもイラストや写真を入れて、期待を持たせていた。金閣寺の写真を見ると「きんかくじ、バス、いく」「いっしょ、いく？」と楽しみにしているようであった。その反面、「いるか」「くらげ」などはイラストから言葉がなかなか出てこなかった。当日は、iPhoneの中にスケジュールを入れて行先に見通しを持たせて、時々自分でも写真を撮った。本物の金閣寺を見た瞬間に「きんかくじ、きんかくじ！」と絶叫して嬉しそうだった。京都水族館では友だちと一緒にまわって楽しそうだった。社会見学後、もともと合わせることができていた金閣寺やお弁当のカード以外に「い、る、か」「く、ら、げ」と一音ずつ読んで合わせられるカードが増えた。事前の学習と実際の経験が繋がったといえる。また、振り返りに「ロイロノート」で写真をつなげたものに本児の音声を入力した。この後、自分から「DropTalk」を見ることが増え、何度も社会見学のフォルダを見ては「バス、いったなあ」等言って楽しんでいる。



振り返り学習「ロイロノート」を使って

一人で合わせられるようになった

・交流学級で、GIGA端末の「ロイロノート・スクール」を使って、総合的な学習の時間での新聞づくりを行った。地震に関係のあるイラストを選んだり、机の下に避難している写真を撮ったりして、新聞を作成した。また、体育の時間に友だちに撮ってもらった自分の写真を提出箱に提出した。



・11月の修学旅行前も、社会見学と同様なアナログの取り組みを深めた。7月に支援学級の宿泊学習に参加したことで宿泊行事への期待が高く、毎日「ひろしま、いく？」と確認していた。当日はiPhoneをすぐ取り出せるようにしておき、スケジュールの確認や撮影をできるようにした。2日間、友だちとしっかり楽しく過ごすことができた。特に、就寝時に「ここでねる！」と友だちと一緒にの部屋から動かずそこで寝た結果、夜中に友だちを全員起こして大騒ぎしたことが、本見だけでなく同部屋の友だちにとっても修学旅行一番の思い出となった。事後学習で「ロイロノート・スクール」でまとめ学習をしたときにも「〇〇おきた。あかんなあ。もうしません。」と言って、そのことを記入して、交流学級で発表をすることができた。

修学旅行の振り返り学習「ロイロノート・スクール」を使って

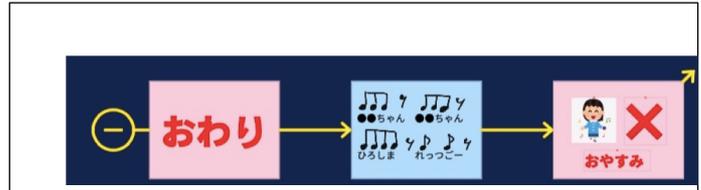
・読めるひらがなが増えた。ひらがなチップをあいうえお順に並べたり言葉カードを読んだりすることが大好きになり、「ロイロノート・スクール」で毎日できた課題を写真に撮るのも楽しそうに行っている。ひらがなを意識して読むことにより、写真やイラストを見て、人にわかるように発音できることばが増えてきたように思う。これは、校内の他の教員も感じているようだ。

・パズルアプリなど、アナログでも得意な活動をiPadでする場合もすぐに手が動いてしまい、そのアプリを終了してしまう。誤操作が多かったが、アクセスガイド機能を使うことにより、「FirstWords Japanese」「こどもパズル」「ぷにふわばる～んとひらがなならべ!!」などのアプリを一定時間楽しめるようになった。

・集団自立活動（朝の会）の中で、GIGA 端末をテレビにつないで、「ひがしおおさか電子図書館」の絵本を読み聞かせすることがある。今年度初めのころは、じっと話を聞ける児童が少なかったが、昔話のアニメで動画を見ることを体験させてから、絵本につなげていくと、前を向く時間が増えた。本児もテレビに絵本が映っている間はじっとすることができるようになった。



・音楽で合奏をすることになった。本児にとっては少し難しいリズムだがカスタネットをすることになった。曲の出だしがカスタネットから入るということで不安だったが、「●●ちゃん、●●ちゃん、ひろしま レッツゴー」（●●は本児の名前）という歌詞をつけ、「ロイノート・スクール」に図のようにかいたところ、すぐに気に入ることができるようになった。「おやすみ」や「おわり」マークも入れると、クラスで合奏に参加できるようになった。



【報告者の気づきとエビデンス】

<主観的気づき>

○「ひろしま いきたいなあ！」

お出かけ大好きで何にでも興味を持つので、行先や楽しいことを写真で見せることで期待を膨らませることができる。いろいろな写真を見せていくと「○○いきたいなあ」「○○したいなあ」と自分からいうことが増えた。iPad や iPhone が手元にあるので、本児が言葉だけでわからないものもすぐに写真で見せることができるので、本児もイメージを持ちやすかった。

○「なあ、しゃしんとって！」

学校の様子を家で見せたり、家で飼っている犬を写真に撮って先生や友達に見せたりしていた。12月ごろには家で、急に帽子をかぶって「なあ、しゃしんとって」と iPhone を出して撮るように家族に頼んだそうだ。そのころから、家での様子を自分から撮るようにせがんで、学校に来てから「写真見て！」ということが増えた。伝えたいという気持ちが膨らんできたように思う。

○「はいしゃ いった！ あーん、した！ かしこい！」

歯医者が苦手でいつも一人でベッドに上がれず、母と姉が二人がかりで寝かせているということを聞いた。そこで、「歯医者さんで一人でお口あーんってしてるころ、見たいなあ」と声をかけておいた。すると、お母さんが iPhone で治療を受けているところを1枚撮ってくださった。一人でベッドにあがって口をしっかりと開けていた。かっこいいところを先生に見せるんだという気持ちだったようだ。このように、写真で自分のいいところを見せたいという気持ちも育ってきた。

○休みでもつながれる安心感

今年度は何度か臨時休校や学級閉鎖があった。その都度数日間に及んだが、体調のことも把握しやすく、家で学習している様子もわかった。長期の休みでも、困ったことがあれば気軽に聞けるという安心感があった。保護者にとっても、つながっていることで安心だったようだ。

<エビデンス> (具体的数値など)

○読めるひらがなが増えた。

4月に10文字程度しか読めなかったひらがなが、1月には清音ほぼ全てを読めるようになった。発音が不明瞭なので、正確に読めているのかはあやしいところもあるが、ランダムにひらがなを提示して、ほぼそれらしく読めていた。単音で聞いたひらがなは3割ほどは「ねこのね」と言わないと「め」と「ね」を聴き間違ふということもあるが、単音のカルタで友達と勝負できるようになった。

○語彙が増えた。

5月末と1月末に「コロメソッドで学ぶなまえのことは学習カード」と「コロメソッドで学ぶ動作のことは学習カード」を用いて、語彙のチェックを行った。(この2種類のカードは日々の学習では一切使用していない。)

	なまえのことは (全100枚)	動作のことは (全100枚)
5月末	55枚	6枚 (「くつをはく」のように名詞とセットにすれば+17枚)
1月末	89枚	71枚

「なまえのことは」については、イラストを見せて何か答えさせた。

「動作のことは」については、イラストを見せても名詞で答えるため10枚の中から「はくってどれ?」と聞いてカードを取らせた。常に10枚ある状態にした。5月には動詞だけではほとんどわからず名詞とセットにしないとカードを取ることができなかったが、1月には動詞だけでも取れるカードが大幅に増えていて、こちらの方がびっくりした。

○校内移動は一人でできる。

児童数が千人以上の大規模校なので、校舎も多く広いのだが、よく行くところや仲良しの児童の教室などは覚えていて、ほぼ一人で校内の移動ができるようになった。困ったことがあると、大きな声で先生を呼び、自分の言葉で伝えられることが増えた。

【今後に向けて】

彼女に出会って約2年。昨年度はあまり関わりがなかったが、今年度毎日近くで活動を共にしてきて、日々成長していく姿を見てきた。人が大好きで、誰にでも話しかけていくのだが、何を言っているのかわからずに、ただ笑っているだけだった1年前。それが今では、何度も言い直して伝えようとして、通じることも増えてきた。保護者からの連絡帳にも「ほんとに、そんな言葉どこで覚えたん?ということがよくあり、語彙が増えたことにびっくりです」と書かれている。それでも、このコロナ禍、交流学級では黙食や私語禁止の場面が多く、彼女にとっては過ごしにくい空間であった。わかることも増えてきた中で、静かに過ごさなければならない場面で、声を出して文字を読んでしまって注意されることも出てきた。そんな学校生活と彼女の今後のことを考え、家族会議も開かれ、進路は支援学校の中学部となった。彼女のよさをしっかり引き出し、成長させてもらえるところというところで、家族が悩み悩んで出した進路である。

環境は大きく変わるが、彼女の「伝えたい」という思いは変わらないであろう。その中で、写真であったり、カードであったり、文字であったり、彼女が伝えるために使える道具が増えたらいいと思う。そして、これからも応援し続けたいなあと思っている。